

ISDA SIMM と FRTB 標準的方式

2016年5月17日(火)、24日(火)開講、全2回

OTC クオンツスクール

キーワード：Fundamental Review of the Trading Book, ES (Expected Shortfall), VaR (Value at Risk), Standardized Approach (SA), Sensitivity Based Approach, ISDA SIMM, Risk Factors, Weighted Sensitivity, Bucket, Risk Class, Initial Margin, Market Risk Capital

今年の9月から順次、CCPで清算していないデリバティブ取引に変動証拠金と当初証拠金が義務付けられる予定です。ISDAの当初証拠金の標準モデル(SIMM)のドラフトが去年の6月に公表されて以来、金融業界でのテストやフィードバックを経て今年9月に向けてモデルの詳細やパラメータが固まりつつあります。SIMMの手法は、2019年に導入されるトレーディングブックに係るマーケットリスク規制資本(FRTB)の標準的方式(SA)で採用されている感応度ベース方式(SBA)を基にしたものとなっています。FRTBのSBAはマーケットリスクによる損失をカバーする資本計算に用いられるものであり、SIMMは、カウンターパーティが倒産したとき、倒産直前までに相手が差し出した変動証拠金残高で債務不履行取引を再構築するコストを購えないために発生する損失をカバーするための当初証拠金を計算するモデルですが、マーケットファクターに対しての方向は反対となりますが、VaRやESを使って”最大損失”を計算する手法はまったく同じものです。

今年の1月にバーゼル銀行監督委員会がトレーディングブックのマーケットリスク必要資本の計算方法を公表しました。こちらは適用時期が2019年からまだまだ時間があること、資本計算は、当初証拠金のように合意する相手がいるわけではなく当事者だけの問題であることなどから、BCBSのガイドラインは、かなり煩雑に書かれており、実際の細部の実装にはある種の解釈が必要となります。この際にSIMMが参考になります。なぜなら、SIMMはデッドラインまでもう時間がなく、2者間で合意されなくてはならないので、かなり厳密に細部まで定義されているからです。

今回のセミナーでは、資本計算(SA-TB)と当初証拠金計算(SIMM)の感応度ベース方式(SBA)を比較検討することで、お互いのモデルの実装がよりよく理解できることを目指します。例えば、FRTBの内部モデルや標準的方式でのリスクファクターの特定化はSIMMが大いに参考になります。また、SIMMとSA-TBでVega charge(margin)やCurvature charge(margin)の計算方法の違いも解説します。

概要

- ISDA SIMM(当初証拠金計算)とFRTB 標準方式(マーケットリスク資本計算)を統一的に理解します。
- 感応度ベース方式(Delta, Vega 及び Curvature)の計算公式の背後にある理論を説明します。また、それぞれの計算公式のSIMMとFRTBでの違いも強調します。

セミナー対象者

- 金融機関でマーケット部署やリスク管理部署の方
- 金融機関のデリバティブ、ALM、リスク管理等の関係部署の方
- 監査法人でデリバティブ業務等の監査に携わる方、リスク管理に携わる方
- 金融リスク関係のシステム構築に携わる方
- レギュレーター

講義日程

第1回	第2回
5/17 (火)	5/24 (火)

時間： 18:00 – 21:00

会場： JAビル カンファレンス 401B

定員： 25名 (申し込み人数が定員になった時点で締め切らせていただきます)

担当講師

高田勝己 (株式会社 Diva Analytics 代表取締役)

平成元年、一橋大学経済学部卒業。日本債券信用銀行 資金証券部 調査役、さくら銀行 商品開発部 上席調査役、コメルツ証券会社 債券部トレーディングデスク ディレクター、ベアースターンズ・ジャパン 債券部 マネジングディレクター、RBC(Royal Bank of Canada)キャピタルマーケット・ジャパン エキゾチック・トレーディングヘッドを経て、現在、株式会社 Diva Analytics にて金融デリバティブモデルにかかるコンサルティングやシステム開発に従事するかたわら東京大学大学院経済学研究科で非常勤講師を勤める。

シカゴ大学 MBA Analytic Finance 専攻。東京大学大学院 数理科学 後期博士課程修了。

受講料

100,000円 (消費税別)

学生割引：フルタイムの学生は50%の受講料で受講できます。

お申込み

OTC クオオンツスクールのホームページ <http://www.divainvest.jp> から申し込んでください。

講義内容

第1回 感応度ベース方式の基礎

- ・ 資本計算 (FRTB 標準方式) と当初証拠金 (ISDA SIMM)
- ・ リスクファクター
- ・ 感応度
- ・ リスク・クラス
- ・ プロダクト・クラス (SIMM のみ)
- ・ 加重感応度足しあげの数学
- ・ Delta risk charge (margin)
- ・ マルチカーブの取り扱い
- ・ FX について

第2回 感応度ベース方式の応用

- ・ Vega risk charge (margin)
- ・ 正定値行列 (Positive definite)
- ・ Curvature risk charge (margin) 公式の導出
- ・ Cornish-Fisher 展開
- ・ クロス・バケットの加重感応度足しあげ
- ・ SIMM と FRTB 標準方式の規制パラメータの比較

(注) 講義内容は見直し等により変更になる場合があります。